

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ものづくり技術者の育成を通して人づくりを行い、地域社会に貢献し信頼される学校をめざす。
- 1 人格の陶冶を育む学校（すべての教育活動を通して真理を愛し協同の精神に富み、自ら学び自ら変える力を養い人格の陶冶をめざす）
 - 2 有為な工業人の養成を实践する学校（我が国の産業の振興に貢献できる創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
 - 3 健全な社会人の育成を实践する学校（規範意識を高め責任感に富み、心身共に健やかで心豊かな社会人の育成をめざす）
 - 4 教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し各方向から取組みを实践し、生徒の成長に寄与し達成感・充実感がある学校）

2 中期的目標

- 1 生徒の自信と自己実現を充実する
 - (1) 確かな学力の育成についての取組
 - ア 1 学年については8クラス9展開のクラス運営を継続し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実を行う。
 - イ 少人数展開を実施し、また、習熟度別授業をすることで「わかる授業」を行い、生徒の自信と意欲を培う。
 - ウ 基礎学力の向上に向け、朝学の充実を図り基礎学力や資格取得等の学習力の向上を図る。
 - (2) 基本的生活習慣の向上（生活指導の充実）
 - ア 生活指導の充実を図り、生徒自らが自己に気づき自ら改善し、基本的生活習慣の向上・充実を図る。
 - イ 保護者との連携を密に行い、生徒自らが遅刻の減少に努める指導・支援の充実を図る。
 - ウ 支援教育コーディネーターを中心として、支援の在り方を組織的に取り組む。
 - エ 部活動への入部率の向上を図り、生徒の自立心を育み、生徒会活動の活性化を図る。
 - (3) 実践的スキル養成重点型校として、教育活動の更なる充実を行い生徒の意欲高揚充実を図る。
 - ア 資格支援センターを設置し、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた資格取得の充実を図る。
 - イ 資格取得の充実を図るため、調査研究等を行い、組織的活動の組織体制を構築する。
 - ウ 各種技能大会参加への組織的充実を図り、生徒の達成感や自己肯定感を向上させ目標を持った学校生活の充実を図る。
- 2 工業教育の充実
 - (1) 「深化と接続」の理念を生かした工業教育を推進する。
 - (2) キャリア教育の一層の推進・充実を行う。
 - ア 学年進行のキャリア学習を行い、一人ひとりに応じた学習環境の改善等について組織的に取り組む。
 - イ インターンシップや企業見学、企業経営者による講演の機会を増やし、キャリア教育の充実を図る。
 - (3) 環境とエネルギーに関する技術を研究し、環境とエネルギー教育の拠点校づくりを行う。
- 3 教員の資質向上
 - (1) 公開・研究授業を積極的に行い、わかる授業への充実と教科指導力の向上を図る。
 - (2) 教員相互の公開授業を通して、学校としての教育力の向上とICTを活用した教材開発を図る。
 - (3) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進する。
- 4 開かれた学校づくり
 - (1) NPOや各種団体と連携を深め、生徒が積極的に外部と繋がることで、生徒の気づきを促し夢や志を育むことを図る。
 - (2) 堺・高石地域の地場産業や公共団体との連携を通して、生徒が自らの目標と将来への夢を育む活動の充実を図る。
 - (3) 小中学校や支援学校との連携を図り、ものづくり教育を通して本校の専門性を発揮し、生徒の自信を図る活動の充実を行う。
 - (4) 学校のWebページの充実を図り、信頼と透明性のある学校づくりを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・保護者は、朝学（基礎学力）や資格取得など昨年度より高い評価をしているが、生徒は昨年度より全体的に低くなっている。これは、教員が意欲的に授業に取り組んでいることへの評価と思われる。また、生徒も朝学については昨年度の5ポイント向上している。保護者では、授業がわかりやすい楽しいと資格取得について、ポイントが高くなっている。教員は基礎学力と資格取得について10ポイント以上向上していると評価している。これは、本年度取組んだ「受動的な生徒から能動的な生徒へ～自主力。字学力、自主性の育成～」の一つの表れかと思う。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・保護者は、全般的にポイントは向上し、基本的生活習慣の向上を目標にした今年の取組みを評価と期待していることが表れているが、生徒は「この学校に入学してよかった」がわずかに上がりながらも、遅刻指導等生活習慣の改善は急にできる事ではなく難しいと感じていると思われるので、ポイントは全体的に下がっている。教員は基本的生活習慣は13ポイント向上していると高い評価をしている。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・保護者は授業参観や学校行事に多数参加している。入学前より入学後にイメージが良くなっているなどが、昨年度より向上しているなど全般的に向上し、学校運営には理解が進んでいる。生徒も、全般的に向上しているが、教員は、職員会議や校内人事など内規の見直しなどに対応できていない教員もいる。初任者が34%近くおり、教員の人材育成が急務である。</p>	<p>・第1回(5月21日実施)</p> <p>○基礎学力の向上について、基礎学力診断テストの結果から、小人数指導・到達度別学習を継続し効果が出ることを期待する。</p> <p>○実践的スキル重点型校として、資格取得や技能大会などを通し生徒のやればできる感(自己肯定感)を伸ばすこと、また発表会やコンテストなどの成果が自信となるので大切である。</p> <p>○キャリア学習を充実することが学校生活の充実と進路指導の早期実現につながる。</p> <p>○教員相互の授業見学の充実が、授業力の向上につながる。</p> <p>○地域小・中学校との連携を深め、本校専門性への理解を深めることも大切である。</p> <p>○教員間の意思疎通・情報交換が良い成果につながるの、連携の在り方を工夫する。</p> <p>・第2回(10月24日実施)</p> <p>○授業アンケート結果では、昨年より高くなっている傾向である。</p> <p>○特定の教科で、平均より低くなっているため、検討が必要である。</p> <p>○授業は教員と生徒が相まって生徒がどう感じるかがアンケート結果に出てくると思われる。教員のわかる授業への取組みが必要である。</p> <p>○地域の学校評価に服装とマナーがある。更なるマナーの向上を進める必要がある。</p> <p>・第3回目(2月9日)</p> <p>○学校教育自己診断と前回の授業アンケートを基に協議した。</p> <p>○生徒の授業理解感と教師の努力度感に差があった。授業力と生活指導割合を8:2に改善するなどの方向性が見えてきた。教師の授業に対する努力改善が更に必要である。</p> <p>○資格取得ができることが保護者に伝わってきている。</p> <p>○現状を把握しながら最善の努力(基礎学力・基本的生活習慣向上)を続けられている。</p> <p>○人事の変革期に学校組織の充実に向けてコミュニケーションの在り方に工夫がされている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒の自信と自己実現を充実する	<p>(1) 確かな学力育成への取組</p> <p>ア 少人数指導の取組</p> <p>イ わかる授業への取組</p> <p>ウ 基礎学力向上への取組</p> <p>(2) 生徒指導の充実</p> <p>(3) 実践的スキル養成重点型校として、教育活動の更なる充実を行う</p>	<p>ア・第1学年については、数学と英語について少人数指導を継続する。また、数学については到達度別のクラス編成とする。</p> <p>・進級・卒業規定等内規の継続検討をする。</p> <p>イ・教員相互による公開授業を行い、わかる授業への教員の授業力向上を図る。</p> <p>ウ・一日のまとめの学びやふり返りの学びなおしを行い、基礎学力の定着と向上を行う。</p> <p>ア・生活指導の在り方を研究・改善する。</p> <p>イ・遅刻指導の在り方を研究・改善する。</p> <p>ウ・教育相談や保健部、担任等で支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制の充実を行う。</p> <p>エ・生徒の自主自立精神を育むため部活動の活性化を図る。</p> <p>ア・資格支援センターを設置し資格取得の充実を図る。</p> <p>イ・資格取得の充実を図るため、校内組織としての組織活動の充実を図る。</p> <p>ウ・技能競技会への取り組みを積極的に推進する。</p>	<p>ア、イ、ウ・授業評価や学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活や授業等満足度を前年度の10%向上をめざす。</p> <p>・多様な生徒の実態に応じた、進級卒業規定を継続的に検討する。</p> <p>ア、イ、ウ・生徒指導に関する教員の共通認識を再度確認しながら、学校としての統一的指導を行う。</p> <p>また、新入生の全中学校を訪問し、一人ひとりの状況に応じた指導を行い、中退及び留年者数を前年度の10%改善をめざす。</p> <p>エ、部活動への入部率45%以上とする。(H25年度37%)</p> <p>ア、イ、ウ・資格取得率を各検定ごとに、昨年度の10%向上をめざす。</p> <p>・ジュニアマスターの受賞者を、平成25年度より10%向上させる。(H25年度13名)</p> <p>ウ、3つの技能競技大会で上位入賞をめざす。</p>	<p>・生徒の学校教育自己診断の結果から以下の①～④がポイントアップした◎</p> <p>①朝学「基礎」に意欲的に取り組んでいる。 H25比で、6ポイントアップの50%</p> <p>②この学校に入学してよかった。 H25比で、1ポイントアップの56%</p> <p>③行事は楽しく行えるように工夫されている。 H25比で、4ポイントアップの55%</p> <p>④入学前より入学後のイメージがよい。 H25比で、1ポイントアップの52%</p> <p>・1月末の中退者は34名で、昨年度の最終中退者66名であり、退学者が減少した○</p> <p>・部活動への入部率35.7%△</p> <p>・資格支援センターを開設し、各種検定資格受験体制を整備した。全校生徒が何か少なくとも1つの資格を受験した。受験者数は100%達成した。受験者増に伴い、各種検定資格試験の合格率は一律にアップした◎</p> <p>・ジュニアマスター11名、特別表彰1名(府1名)△</p> <p>・ものづくり競技会電気工事部門入賞3冠(大阪、近畿、電業協会)、電子回路部門大阪大会優勝、相撲ロボット全国大会出場。ものづくり競技会化学分析で近畿大会出場◎</p>
工業教育の充実	<p>(1) 「接続と深化」の理念を生かす工業教育の推進</p> <p>(2) キャリア教育の一層の推進・充実</p> <p>(3) 環境とエネルギー教育の拠点校づくり</p>	<p>ア・生徒の進路選択がスムーズに進むよう、全体として組織的指導体制を整える。</p> <p>イ・進学をめざす生徒への指導体制を整える。</p> <p>ア・各学年での「キャリアガイダンス」の指導の充実を図り学校としてのキャリア教育の積上げを行う。</p> <p>イ・インターンシップを積極的に推進し、将来単位認定を検討する。</p> <p>ア・堺市やNPOとの連携を通して、環境問題やエネルギー問題について、積極的に取り組む。</p>	<p>ア・就職試験での一回目の合格率70%以上をめざす。</p> <p>イ・補習体制を構築し進学希望者の合格率を10%向上させる。</p> <p>ア・各学年、年間2回以上外部講師による講演や企業見学を実施する。</p> <p>イ・インターンシップ参加者を20%アップさせる。</p> <p>ア・堺市との環境問題に関する連携を深める。(年4回以上)</p>	<p>・就職試験一次合格率78%◎</p> <p>・1学年、キャリア教育による外部講師講演会を1回実施。全クラス企業訪問実施○</p> <p>・2学年、全クラスで企業訪問実施○</p> <p>・3学年、進路指導として、外部講師による講習会2回実施◎</p> <p>・インターンシップは、2学年を中心に実施した。昨年度参加人数に比べて、ほぼ倍増の56名が参加した◎</p> <p>・堺市と連携し、5回古墳浄化活動及び化学分析技術レベルアップに取り組んだ◎</p>
教員の資質向上	<p>(1) 公開授業を行い教科指導力の向上を図る</p> <p>(2) 公開授業を恒例化し教育力の向上を図る</p> <p>(3) 人権教育の推進をする</p>	<p>ア・教員相互に研究授業を実施し、教員個々の教科指導力の向上を図る体制を図る。</p> <p>ア・公開授業をとおして、学校としての教育力の向上とICTを活用した教材開発を図る。</p> <p>ア・人権教材の資料を整理し、授業で活用できるようにする。</p> <p>イ・教員の障がい理解や人権意識を高める研修を実施する。</p>	<p>ア・教員の研究授業を各科系で年間2回以上開催する。</p> <p>ア・公開授業週間を実施し、全教員相互の授業見学により教育力の向上を図る。(教員の参加率70%)</p> <p>ア・ホームルーム等を活用して人権教育の充実を図る。</p> <p>イ・教員研修を年間5回以上実施する。</p>	<p>・初任者等校内研修を初任者指導教員を中心に立ち上げ、経験年数の少ない教員の研修を充実させた◎</p> <p>・初任者は、年間4回の研究授業を実施し、公開授業週間は2回実施したが、教員相互の授業見学の充実は望めなかった(教員の参加率25%)○</p> <p>・教員対象の人権研修、各学年の生徒対象の人権研修が実施できた◎</p> <p>・教員研修は、人権研修を含めて6回実施できた◎</p>
開かれた学校づくり	<p>(1) 連携事業を通して、生徒の気づきを促し夢や志を育む。</p> <p>(2) 外部連携を通して生徒が自らの目標と将来への夢を育む活動の充実を図る。</p> <p>(3) 小中学校等との連携を図りものづくり教育を通して、本校の専門性を発揮する。</p> <p>(4) Webページの充実を図り信頼と透明性のある学校づくりを行う。</p>	<p>ア・地域の企業や団体と協同し、生徒が積極的に参加できるよう組織と事業の充実を図る。</p> <p>ア・課題研究や授業等を通して、地域との連携事業の充実を深め、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>イ・専門性を活かし、堺地域コンソーシアム推進会議等の活動を通して、地域企業等との連携を深める。</p> <p>ア・近隣の小中学校等との連携を深め、ものづくりを通して本校の専門性を発揮し、生徒の自信を図る活動の充実を行う。</p> <p>イ・本校の専門教育を通して、障がいのある生徒との交流や共同学習を積極的に行い、豊かに生きる力を育成する。</p> <p>ア・情報発信の充実を図るために、Webページや携帯電話連絡網の充実を図る。</p>	<p>ア・学校として窓口を一本化し、連携事業を整理し、充実した連携組織と事業の充実を行う。</p> <p>ア・地域地場産業との連携を一層深めると共に、授業や部活動等の充実を行う。(年3回以上)</p> <p>イ・水質検査や溶接講習・たたら製鐵等を行い、生徒の学習意欲の向上を行う。</p> <p>ア・近隣の小中学校3校に対し、ものづくり体験教室を年間で3回以上実施する。</p> <p>イ・障害のある生徒との交流等を2回以上行う。</p> <p>ア・Webページの更新は2週間に1度行う。</p>	<p>・「府立高校と企業の連携による人材育成事業」を活用し、企業実習では延べ16人、企業技術者による実践的指導では延べ250人、共同研究では延べ40人、企業内研修では延べ7人の生徒が参加した◎</p> <p>・企業の社員教育研修と部活動のコラボレーションを3回実施し、ものづくりを通して、両者が目標を一つにし、生徒が積極的に参加した◎</p> <p>・企業連携のものづくり実践に近隣の小中学校に案内を出し、1回小中学生・教員・保護者が訪れた△</p> <p>・だいせん聴覚高等支援学校との共同学習は10回できた◎</p> <p>・Webページからの情報発信は十分行えているが、ソフトウェア精度の関係で更新が十分でなかった通算で3週間に1度程度△</p>